

市長コメント

今から約 14 年半前、平成 23 年 12 月に野洲駅前の民有地約 9,345.01 m²を、市議会において「市民活動拠点施設用地」として取得することを全会一致で可決いただき、取得しました。

その後、文化ホールなど周辺市有地も含め「野洲駅南口周辺整備構想」が策定されましたが、実現することなく今に至っています。その間、区域内の公共施設の老朽化などが進んだこともあり、速やかに再始動することを目的に、昨年度は構想の見直しを行いました。

原点に立ち返り「市民のため」に活用するため、スピード感を持って取り組みを進めるとともに、今後、市民の皆さんにも定期的に情報発信してまいります。



櫻本 直樹

構想イメージ

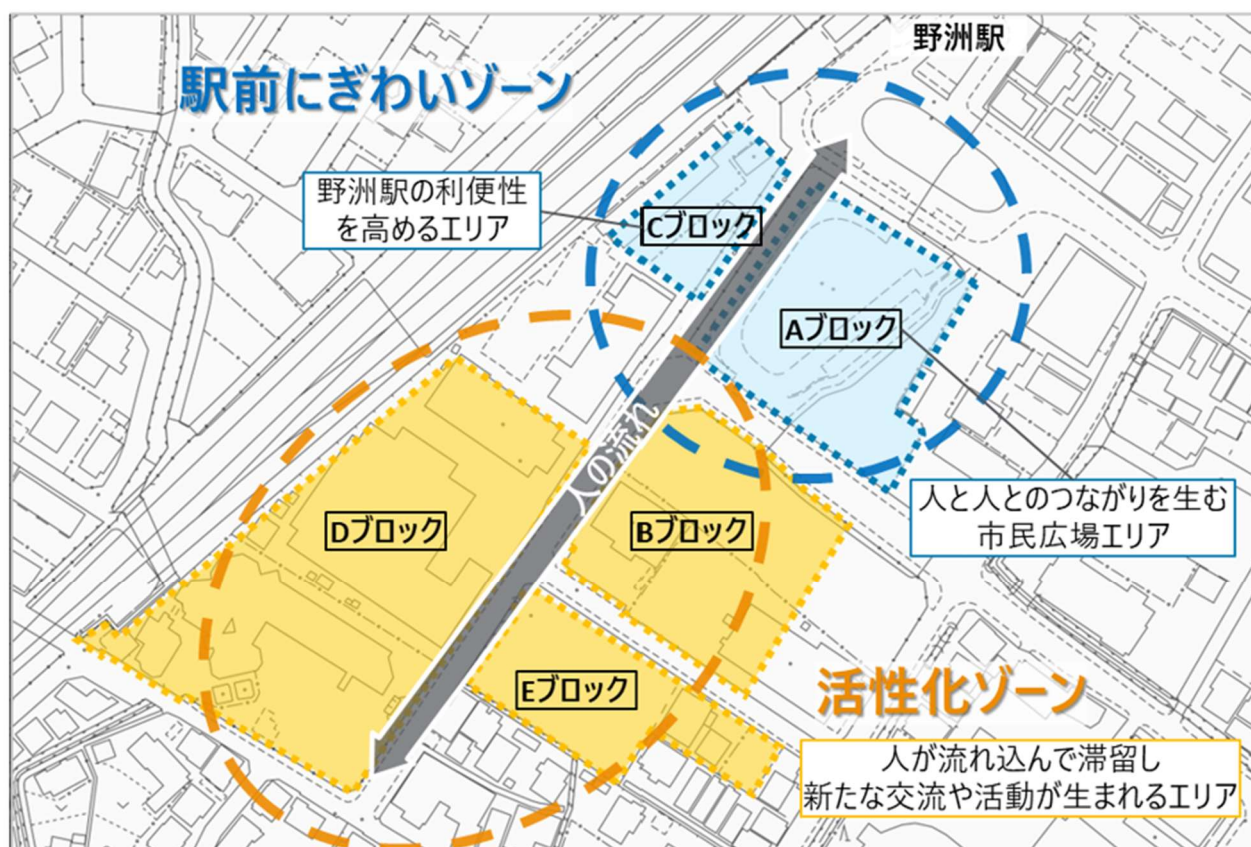


※構想を基にしたイメージイラストです。

構想コンセプト

人と人がつながることで生まれるにぎわいづくり
～ひと・もの・ことが出会う空間～

エリア配置イメージ（ひと・もの・ことが出会う空間の考え方）



AブロックとCブロックを「駅前にぎわいゾーン」と位置付け、利便性の向上や交流の仕掛け等を通して、にぎわいを生むエリアとします。

Bブロック、Dブロック、Eブロックを「活性化ゾーン」と位置づけ、野洲駅南口周辺エリア全体の活性化に寄与する利活用を検討するエリアとします。

現時点での工程イメージ

令和7年度 野洲駅南口周辺整備構想の見直しを行いました。

令和8年度 野洲駅南口周辺整備の基本計画を策定します。

この中で、各ブロックの整備内容やスケジュールなどを定めます。

令和9年度から

基本計画に基づき、まちづくりをスタートします。

なお、駅ロータリーに隣接するAブロックは、今後の市民活用に向けて、当面の間さまざまな暫定活用にチャレンジしてまいります。

今年度の検討方針

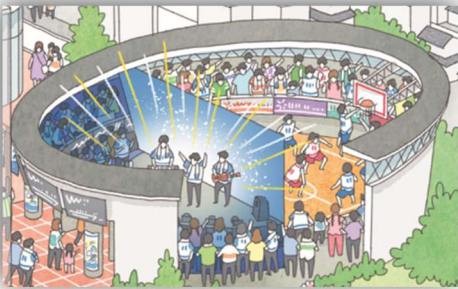
JR野洲駅南口の整備対象エリアにある市有地をAからEのブロックに分け、活用を検討しています。今年度は、令和8年3月に改訂した「野洲駅南口周辺整備構想」に基づく、各ブロックの具体的な整備内容や運営計画などを検討し、今後の配置機能などの方向性を基本計画として定めます。

構想では、5つのブロックを2つのゾーンに分け、それぞれのコンセプトに沿って検討を進めてまいります。中でも、駅から離れた位置にあるB、D、Eブロックを「活性化ゾーン」と位置付けています。中でも面積が大きいDブロックについては、「新たな交流や活動を生み滞留・滞在につながる施設整備」を基本的な考え方としています。駅からエリア最奥までの人流を創出し、野洲駅南口周辺全体ににぎわいを広げていくためには、Dブロックが重要な役割を担うと考えています。

構想改訂の過程において、「人流創出」と「文化施設のあり方」の両面から検討を行い、Dブロックの機能検討方針を「文化ホール大規模改修」、「エンターテインメントアリーナ整備」、「企業オフィス誘致」の三案に絞り込みましたので、今年度はその三案をベースとして検討を進めます。

文化ホール大規模改修

長く市民に活用された文化機能を維持することは重要であり、文化ホールのあり方を検討する必要がありますが、老朽化が進んでいる状況です。改修設計を行った結果、想定以上の改修費用が見込まれることに加え、バリアフリー改修が十分に実施出来ない等の課題が明らかになりました。今年度、これらの課題を踏まえ、改修による費用対効果と人流創出への寄与という面での検証を行います。



エンターテインメントアリーナ整備

新たな交流を生む施設として、エンターテインメントアリーナ整備が考えられます。近年のアリーナは、プロスポーツやコンサートだけでなく、展示会などの企業利用、はたちのつどいやスポーツ大会などの市民利用の他、大規模な地域防災拠点としてなど、幅広いニーズに対応出来る事例が増えています。こうした事例を参考に、市民の文化活動拠点の確保と併せ検討を進めます。なお、整備費用等が課題となるため、民間資金の活用や補助金の活用可能性を含め検証を行います。

企業オフィス誘致

日常的な人流確保を目的とした企業オフィスを誘致することが考えられます。企業オフィスの誘致については、市内外からの一定の企業ニーズは見込まれると想定されることから、関係者へのサウンディング調査を通してニーズを把握した上で、実現性について検討します。企業オフィス誘致案となった際にも、市民の文化活動拠点の確保については、新小劇場を整備するなど検証を行います。



今年度の目指す姿

Dブロックに配置する機能は、「活性化ゾーン」への人流を生み出し、野洲駅南口周辺全体に、にぎわいを波及させる重要な役割であると考えています。そのため、今年度Dブロックの整備方針を定め、対象エリア全体の整備効果を高める基本計画を策定してまいります。

野洲駅南口今昔 その1

野洲駅南口周辺の駅前自治会では、平成 28 年 11 月に 50 周年を迎えたことを記念して、記念誌「駅前を散策」を発刊されました。この記念誌には今日に至るまでの多くの野洲駅南口周辺の歴史が描かれています。駅前自治会にご協力いただき、野洲駅前の歴史を紹介させていただきます。



明治・大正時代の野洲駅前通り



明治から大正にかけての駅前通りです。「野洲駅前です」と聞かなければ、想像が出来ない風景です。

突き当たりの倉庫の一角が野洲駅舎だったようです。時代劇の撮影にピッタリの風情を呈しています。

写真手前に時代を感じさせる可愛らしい橋が写っています。祇王井川に架かる橋です。左の石柱は錦織寺を案内する道標。右には立派な常夜灯が堂々と構えています。野洲駅に懸ける当時の駅前住民の意気込みが伝わってきます。

朝の通勤通学風景・立ち並ぶ商店

昭和 40 年代の駅前です。二代目駅舎に向かう朝の通学通勤時の風景です。昭和 30 年代から 40 年代にかけて、道路の左側も右側も駅まで途切れることなく商いを営む店が立ち並んでいました。

当時は、雑貨屋、散髪屋、食堂、自転車預かり所が軒を連ねていたと記憶しています。

田舎の駅前なのに「お食事処（うどん屋さん）」が2店も軒を並べていたことが素晴らしい。



自転車預かり所の風景



50 年前※にもバスはありました。しかし 1 時間に 1 本あるかないか、必然的に通勤・通学の足は自転車となります。「ここに置いとく！」「こっち持ってきて！」。朝の自転車預かり所の慌ただしさは正しく戦場の様相を呈していました。自転車預かり所だけでも数軒あったと記憶しています。愛想の悪いオッチャン、愛想の良いオバちゃん。どの顔も懐かしい。

※ 執筆当時

出典：駅前自治会 50 周年記念誌 「駅前を散策」

印刷・発行 平成 28 年(2016)11 月 13 日

編集・発行 駅前自治会 50 周年記念事業推進委員会 記念誌編集委員会